

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月紹介していくコーナーです!



この二次元コードを読み込んで、ドラゴンズファーム誘致の応援署名をしましょう



REPORT 279

ドラゴンズファームの誘致を 市民の皆で盛り上げよう!

昨年、中日ドラゴンズからファーム拠点をナゴヤ球場から移転する計画が発表されました。市は今年5月、正式に誘致に名乗りを上げました。以降、市民の皆さんとともにドラゴンズファーム誘致を盛り上げようとさまざまな取組を展開しています。

5月頃には、優先交渉権者が決定します。これは、立候補している複数自治体の中から優先して契約交渉ができる権利を持つ自治体が決まるということです。最終的な移転は、2030年代前半を目指しているそうです。

皆さんも一緒に応援を

市では、総合運動場（市民球場）の敷地・約9万2千平方メートルを候補地にあげ、誘致に手を挙げています。2027年

誘致を成功させるには、地域の熱意や協力体制が求められます。そのため、現在、市では市内外の皆さんに誘致に関して応援署名を募集しています。上記二次元コードを読み



応援署名にご協力を!



市職員の有志をメンバーとした「ドラゴンズ歓迎隊」が作ったPRポスター。手書きで、すごい出来栄です。公式には、中日ドラゴンズファーム拠点誘致プロジェクトチームが実現に向けてさまざまな検討を進めています。



本庁舎にあるメッセージボード。PR隊長も登場しています。

市民の皆さんからは「知名度が上がるよね」とか「いろいろな人が来て盛り上がるよね」といった声

小牧から始まる「夢」

他にも、市役所本庁舎と中央図書館で応援メッセージボードを設置しています。

また、6月末までにたくさんの方の応援動画が集まりました。市のホームページから見ることが出来ます。

とり、氏名を入力し、お住まいの地域を選択するだけです（氏名が公表されることはありません）。「家族や友人、市内外を問わず、応援の輪を広げてほしい」と市の担当者は話します。7月13日現在でおよそ6800人が参加しています。



毎週金曜日は職員がドラゴンズのユニフォームを着て、誘致を応援する「ドラゴンズデー」です。中には、めっちゃ古いユニフォームを着ている職員もいて、思わず目とまります。全て自分の持ち物だそうです。

が大活躍するような選手が小牧から羽ばたくー夢が叶うーという感動を身近に体感できる素晴らしい機会が生まれます。

この大きなチャンスにチャレンジするプロジェクトをぜひ、応援しましょう。

編集後記



話を聞いて、実現したらスゴイことだと実感しました。野球ファンだけでなく、ドラゴンズファンでなくともぜひ、応援してくださいと思います。小牧のために、頑張ろう。

今回の取材先

市秘書政策課

住所：市役所本庁舎3階
電話：76・1105

「寄付を文化に」 僕らの100円が未来をつくる



KATSUO CLUB



「寄付を文化に」を目的に「かつおクラブ」の代表を務める足立雅樹さん。SNSのNOTEを利用し、毎月1人100円の寄付を募り、集まったお金をさまざまな団体や慈善活動を行う人に寄付し続ける足立さんに話を聞きました。



かつおクラブを運営する足立雅樹さん

足立熱処理研究所の代表取締役でもある足立さん。こどもの頃から「人を救える人になりたい」。そんな夢を叶えるまでにはさまざまな苦労がありました。名古屋で暮らしていた若い頃、知り合いが飼っていたウサギが虐待に合っていることを知り、お金もなかった自分とそのウサギをもらって飼い始めました。ポケットにあった100円でキャベツを買い、ウサギと半分ずつしたら、あまりにも美味しそうに貪り食べるウサギを

見て、自分も空腹だったけれど、自分の分もウサギにあげることに。空腹は辛かったけれど「分け与える喜び」を覚えてくれました。ウサギの名前は「かつお」「かつおクラブ」の名前の由来です。

小牧に戻り、祖父からの会社・足立熱処理研究所を継ぐために働き始め、2022年に自分の夢を叶える第一歩「かつおクラブ」を立ち上げました。

みんなの一步が大切

かつおクラブは、足立さんがSNSのNOTEで自分の思いや寄付を募るメッセージを発信し、賛同してくれた人

たちがメンバーになり、集まったお金を寄付するというシステムです。寄付額は100円からで、現在、全国から100名以上の人が参加しています。「メンバーの名前や居住地など、ほとんど知りません」と話す足立さんは、自分が寄付したお金がどのように使われているのか、通帳のコピーなどをメンバーの人たちに全て公開し、振込手数料などを差し引いた寄付額の約85%を寄付に使って



米野小学校での寄付の様子。寄付の品だけでなく思いも一緒に届けたいと話をする機会を設けてもらっています。

ます。また、どのように誰に寄付をするのかもメンバーの皆さんとSNS上で話し合っているそうです。

多くの支援を継続

今までにディサービス施設や能登半島地震被災者への寄付、自らも参加するカンボジア農村部に雇用と教育を生み出すNPO法人などへの支援、小牧市中央図書館に書籍の寄付などを行ってきました。中でも、現在の活動の中心となっているのは、「宇宙兄弟」という漫画を全国の学校に寄贈する活動です。メンバーの一人からの「漫画を読んで、夢はあっても、なくてもどちらでもよくて、少なくともこの漫画を読んだこどもたちは、人の夢をバカにしない」。誰かの夢を応援できる。学校の図書館という日常の中にこの漫画があることで、そんな人が増えたら良いな」という思いから始まりました。昨年は北海道旭川市や小牧・米野小学校など

8校に寄贈され、今年は小牧市内や兵庫県の学校など8校が予定されています。

足立さんは「趣旨に賛同してくれる多くの皆さんと共に継続していくことで、多くの人を救ったり、助けたりできると信じています。興味のある人はぜひ、左記二次元コードより活動の詳細をご覧ください。」



編集後記



自分の寄付が何かの役に立っているのか、一目瞭然の上、毎月100円なら余裕のない私でも始められるかも。いろいろな支援の輪が広がるといいなと思います。

今回の取材先

かつおクラブ
代表 足立雅樹



Facebook